

「富富富」栽培特報

令和3年7月14日
魚津「富富富」ブランド化推進協議会



1 富富富の生育状況

7月13日現在の実証ほの生育は、早植えは近年に比べ草丈は長く、茎数は平年並で、葉色はやや濃くなっています。普通植えでは、草丈は短く、茎数はやや多く、葉色はやや濃くなっています。

表 富富富の生育状況（7月13日栽培実証ほ）

年次	地点	地点	田植日 (月/日)	草丈 (cm)	茎数		葉齢 (L)	葉色		幼穂形成期
					(本/株)	(本/m ²)		葉色板	SPAD	
R03	魚津市	早植え	5月6日	71.8	21.3	543	12.6	4.3	38.8	7月12日
		普通	5月15日	63.5	26.7	569	11.6	4.3	34.9	7月15日
		県平均	5月16日	65.3	24.1	523	11.7	4.2	39.6	7月15日
近年	県平均	5月14日	65.3	25.5	550	12.0	4.2	38.1	7月13日	

表 幼穂形成期の生育の目安

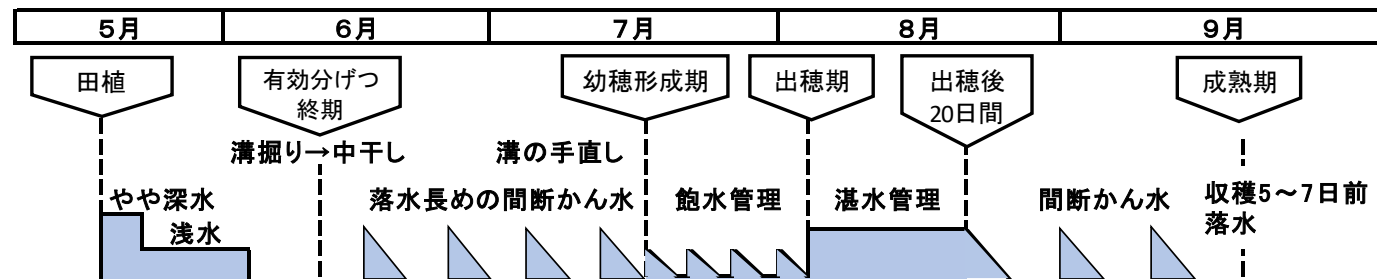
草丈 (cm)	m ² 茎数 (本/m ²)	群落 葉色	SPAD	生育量 ※
62	580	4.0	35	140

※生育量：草丈×茎数×群落葉色÷1000

幼穂形成期に目安(左表参照)に比べて葉色が濃い場合や茎数が多い場合は、幼穂形成期まで落水期間が長めの「間断かん水」を行い、色ざめを促し、葉色を4.0に誘導しましょう。

2 水管理

《水管理のイメージ》



①中干し終了後～幼穂形成期

・原則、1日湛水・3～4日の落水期間長めの「間断かん水」を行きましょう。ただし、7月上旬の葉色が極端に淡いほ場（葉色板で4.2未満、SPAD値38未満）では、乾きすぎないように飽水管理を行い、葉色を維持しましょう。

②幼穂形成期～出穂期

・幼穂形成期以降は足跡に水が残る程度の「飽水管理」を行きましょう。ただし、葉色が濃い場合は引き続き間断かん水を行きましょう。

③出穂期～

・出穂期から20日間は、稲体の活力維持とカドミウム吸収抑制のため、「湛水管理」を徹底しましょう。

3 穂肥

①基肥一発肥料（富富富専用肥料）の場合

適正な基肥量が施用されている場合、穂肥は施用しません。ただし、出穂の1週間前の葉色が4.0より淡い場合は追加穂肥が必要です。

【追加穂肥が必要な時は】

田植時期	出穂1週間前	葉色	肥料名および施用量
5月6日頃	7月26日頃	4.0未満	追肥3号 7kg/10a
5月15日頃	7月29日頃		

②分施肥（基肥：BB206号＋穂肥：追肥3号（2回））の場合

幼穂形成期の茎数や葉色を確認し、適正に施用しましょう。

【1回目穂肥施用の目安】

田植時期	施用時期	幼穂長	葉色	肥料名および施用量
5月6日頃	7月19日頃	1.5cm程度	4.0	追肥3号 5～7kg/10a
5月15日頃	7月22日頃			

【2回目穂肥施用の目安】（1回目の1週間後）

田植時期	施用時期	肥料名および施用量
5月6日頃	7月26日頃	追肥3号 10kg/10a
5月15日頃	7月29日頃	

※ほ場によって生育の進み方が異なりますので、幼穂の長さを確認して、施用時期を判断しましょう。

※幼穂形成期の葉色が4.0より濃い場合や茎数が多い場合は、施用時期を1週間遅らせて、追肥3号で10kg/10aの施用として下さい。

4 病虫害防除

6月25日現在の雑草地のカメムシ類の発生は、昨年同様に多発となっています。（本年：35.0頭/平年：19.3頭）

カメムシ類による斑点米の発生を防ぐため、適期防除を徹底しましょう。

※畦畔雑草にもカメムシが生息しているため、畦畔にも薬剤がかかるように散布しましょう。散布間隔は7日間を目安とします。（10日以上あけない）

【基本防除の目安】

○ 粉剤または液剤の場合

剤型	防除日 (目安)	使用農薬	散布量 希釈倍数	使用基準 (収穫前 日数)	成分数
粉剤	穂ばらみ期	モンセレン粉剤 DL	4kg/10a	21日前まで	1
	出穂期	ラブサイドスタークル粉剤 DL	4kg/10a	7日前まで	2
	穂揃期	キラップ粉剤 DL	4kg/10a	14日前まで	1
液剤	出穂期	モンカットラブサイド20 フロアブル	100ml/10a	14日前まで	2
		スタークル液剤 10	100ml/10a	7日前まで	1
	穂揃期	キラップフロアブル	100ml/10a	14日前まで	1

・風向きと風力、散布量等に注意し周辺の作物や住宅地等への飛散防止に努めましょう。
・農薬は基準量を守って使用し、栽培履歴をしっかりと記録しましょう。

栽培基準を守って、高品質で美味しい「富富富」の生産を！